

安全教育と やさしい日本語

優しく わかりやすい 伝え方

制作：福祉のやさしい日本語協会
監修：堀 清和（臨床福祉学博士）

本冊子に 掲載されている内容（文章 イラスト等）の 一部 または 全てを 無断で
複製 転載 転用 改変等を行い二次利用すること および 販売・商業利用することを 固く禁じます

目次

はじめに（やさしい日本語について）	1
やさしい日本語のルールとポイント	7
防災編	12
ハンディキャップ別の 困りごと例	19
見通しの 立て方	26
外国にルーツのある人への 配慮	29
交通安全編	30
声かけの 仕方 や 教え方	36
交通安全の参考情報	42
文献	43

はじめに

この資料では 防災・防犯 交通事故 や 生活事故の予防のために
家庭や地域 学校や施設 職場などで 教育に携わる人が
意思疎通の難しい人にも わかりやすく 伝える方法を 紹介しています

障がいや 病気などで さまざまな困難を抱える人の
非常時の困りごとの 解消と予防 や 安全教育・対策について
ご家族 や 指導者や支援者が 学べるようになっています

日本語を 母語としている人や
すでに 日本語の読み書きを 習得している人で
やさしい日本語を 家庭や地域 福祉や教育の場で 使う人向けの 資料ですので
解説で用いられる 表記自体は 厳密な意味での やさしい日本語ではありません

やさしい日本語とは

やさしい日本語とは

難しい 書き言葉や 話し言葉を 理解することが 困難な人にも

わかりやすい日本語で 伝えることや

わかりあうことを 目的とした コミュニケーションの 手段です

主に 外国にルーツのある人向けに 考案されたものですが

こどもや 高齢者 障がい特性により 意思疎通が難しい方にも

わかりやすい伝え方で 福祉や教育の場でも 注目されています

この冊子では 当団体代表 堀清和が 過去に執筆した論文や書籍 研究代表者や共同研究者として参加した
研究やプロジェクトの成果物（冊子等）の記述を わかりやすく 要約・抜粋して 紹介しています

なぜ 安全教育に やさしい日本語が 必要か

安全教育や 安全対策をおこなうことは 多くの人が けがをすることなく
健康に 生きる上で 大切なことです
すべての人の 安全を視野に入れると
日本語が読めない人や ハンディキャップにより 情報の理解が難しい人のことも
考えておかねばいけません

防災の指導や 危険をとまなう 機械の操作手順などのマニュアルには
専門用語や 難しい表現が 多く用いられる傾向にあります
簡単な読み書きや 会話はできても
難しい表現があると 内容を理解することが できないこともあります
事故を防ぐための 方法や マニュアルの内容は **日本語の読み書きが苦手な人や
日本語で会話することが難しい人も** 理解できるように伝えることが 必要です

正確な意味を 理解しないまま 教わったことを 文字通りにやろうとして
かえって 危険な行動を とってしまうことがあります

例えば 防災教育を 例にとってみましょう

「地震が起きたら 机の下へ 隠れなさい」
と教わると



実際に 地震が起きたときに 安全な広場においても
先生に教わった通り
机の下に隠れるために あぶない木造の建物に 入ってしまう子がいます

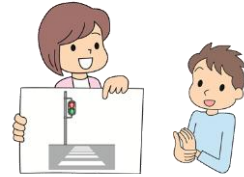
なぜ 机の下に隠れるのか
どのような場合に その行動を [とるのか] / [とらないのか]
わかりやすく ていねいに 伝える必要があります

なぜ 情報が うまく 伝わらないか

非常時などに 大切な情報が その情報を 必要とする人に 伝わらないことがあります
その背景には 次のような いくつかの理由が あります

① ハンディキャップにより 情報を得ることが難しい

難聴や弱視 文字が読めない などの **ハンディキャップ**によって
情報を 得られないために 必要な行動がとれない人がいます
音声聞き取りづらくても 文字が読めなくても
写真や**イラスト**があると 内容を推察しやすくなります
目が不自由でも 文字情報だけではなく 音声情報もあると 理解しやすくなります



② 情報の 意味がわからない

聴覚や視覚に 問題はなくても **日本語の理解**が難しければ 適切な行動はとれません
ふだん 聞いたことのない**専門用語**や **難解な表現**で説明されると
日常会話ができる人でも 理解が難しくなります
命に関わる 重要な情報は 多くの人が理解できるような表現で 伝える必要があります
(目安は 小学3年生でも 理解できる程度の難易度です)

③ 情報の内容を誤解する

文章や会話の内容の 一部 または 全体の文字通りの意味は 理解できても
伝える側が 本当に言いたいことを **違う意味で 解釈する**人がいます
例えば「避難時には 走って逃げてはいけません」と教わると
火事や 津波が迫っているときでも ゆっくり移動してしまう人がいます
暗黙の了解を **理解しづらい**人や も
ていねいな説明がないと 誤解しやすくなります



④ 文化の違いによる 誤解や思い込み

日本で 常識とされることを知らない人も 思わぬところで 誤解することがあります
たとえば「避難所を利用するのに 高額な料金が必要である」
「救急車を呼ぶと 呼んだ人が 高額の料金を支払わなければいけない」
などという 思い込みや 誤解です
誰かから **日本の慣習**や **一般的な常識**を教わっていないと
思い込みで 適切な行動を とれなくなることがあります

誤解されやすい 表現の例

次のような表現は 特に 日本語が苦手な人から 誤解をされやすくなります。

同じ音なのに 区切る場所や 抑揚で 複数の意味を持つ表現

「くるまで まってください」

(解釈可能な意味)

- ① (誰かが) 来る / まで 待ってください
- ② 車 (の中) / で 待っていてください



言いかえ例

- ① 「〇〇さんが ここに 来ます」「それまで ここで 待ってください」
- ② 「車の中で 待ってください」

同じ音なのに 文脈によって 複数の意味を持つ表現

「なんで ここにきたの？」

(解釈可能な意味)

- ① どのような手段(徒歩や車 電車など)で ここにきたの？
- ② なぜ ここにきたの？

言いかえ例

- ① 「どのようにして ここにきたの？」
- ② 「なぜ ここにきたの？」

同じ言葉なのに 正反対の意味を持つ表現

「大丈夫です」 / 「結構です」 / 「いいです」

(解釈可能な意味)

- ① 「それで いいです (問題ありません)」 / 「OK です」 (YES の意味)
- ② 「きづかっていただかなくて 大丈夫です」 / 「No thank you」 (No の意味)

言いかえ例

- ① Yes の場合 「これで OK です」 / 「これで 問題ありません」
- ② No の場合 「必要ありません きづかってくれて ありがとう」

伝わりづらい 難しい 表現の例

次のような 表現は 伝わりづらくなります
言いかえ例のように 工夫しましょう

二重否定（一つの文に 否定語が複数ある表現）



「急がないと 間に合わないよ」

言いかえ例
「急ぎましょう」
（肯定文で短く伝える）

部分否定（一部 例外があることを伝える表現）

「この水は 飲めなくはないです」

言いかえ例
「この水は飲めません」
「他の水を飲みましょう」
（言いたいことを そのまま伝える）

抽象的表現

「そこらへんにいて」
「ちょっと 待ってて」
「なにか困ったら 若い人さがして 聞いてください」

言いかえ例
「この椅子に 待ってて」
「あと 10分 待って」
「困ったら 扉の近くにいる 赤い服の人に 聞いてください」
（具体的に伝える）

ハンディキャップ【困りごと・障壁】は 特別な人だけの 課題ではありません

この冊子では 目や耳が不自由な人 判断する力に自信がない人 など
いわゆる【障がいのある人】の困りごとと その対策を 紹介しています
ただ その【困りごと】は 障がいのある人だけの 課題ではありません

現在 ハンディキャップによる 困りごとがなくても
災害時に けがをすれば 歩くことが 難しくなりますし
ねんざをすることや 膝関節の痛みで 歩きづらくなることも あります
風邪をひくことで 一時的に 難聴になることも あります

一般の人の中には 障がいが 一生治らない状態と 思っている人もいますが
一時的に 発生する困りごとについても 平常時から しっかり 考えておく必要があります

障がい特性については 後で詳しく紹介しますが
あまり 個別の【障がい】の部分を強調すると 今 困りごとを あまり抱えていない人が
【自分には 関係のないこと】と 思い込んでしまう 危険性があります

この冊子でいう ハンディキャップや 特性は
制度や 診断名で【障がいのある人】といわれた人の話ではなく
一時的であれ 継続的であれ なんらかの困りごとが 発生している状態 と
考えてもらえると わかりやすいかと思います

【日本の文化や習慣に なじみが少なく 暗黙の了解が わかりづらい人】や
【難しい表現を使った日本語の 理解が難しい人】
についても 必ずしも 外国に ルーツのある人だけの 困りごとではありません
海外生活が長い 日本人や 知的なハンディキャップがある人も
同じような 困りごとを かかえやすくなります

特定の 国籍や 人種 固有の困りごと としてとらえてしまうと
同じような困りごとを抱えている 日本人のことを見落としてしまいます
そこで この冊子では 【特定の属性の人の 固有の問題】として とらえるのではなく
【さまざまな立場の人が 抱えている 共通の課題】として とらえるため
困りごとの方に 重きを置いて その課題と 対策を 紹介しています

以下 やさしい日本語のルールとポイントについては 別冊の「基本と実践」と重複した内容を 掲載しています

やさしい日本語のルール

ここで やさしい日本語を 使いたい方のために 基本的なルールを 示します。¥

「やさしい日本語」の研究と 実用化に 尽力してきた
弘前大学の 社会言語学研究の 研究成果(12のルール)を 基にして
筆者が 加筆、修正、具体例を 追記したものです
(堀清和著 障がい児・者のための交通安全 公益財団法人タカタ財団研究成果物より引用)
ただ 注意しておきたいのは やさしい日本語は
言葉の壁があり コミュニケーションをとることが むずかしい人と
わかりあうための 手段という点です

場合によっては ルールにとらわれずに 違う伝え方を する必要もあります。
わからないときに わからないと言える 話しやすい雰囲気づくりのような 環境の調整や
身振り手振りのような 言語以外の 伝達方法も 大切になります

1

難しい言葉避け簡単な語彙を使う
類似表現はできるだけ統一する

危険 → あぶない 召し上がる → たべる
相談してください、お尋ねください → 聞いてください
ご連絡ください

小学3年生が 読んで 聞いて わかる程度の 難易度が
目安と なります

2

一つの文を短くして分かち書き(文の切れ目に空白を入れること)をする
主語や修飾語を短くする、文の構造を単純にする

車両が多数往来する交通量の多い道路を歩行する際は
危険を伴うため安全に十分留意して歩行すること。

→ ^{くるま}車が ^{おお}多い道は ^{みち}あぶないです。
^{くるま}車に ^き気をつけて ^きあるいてください。

やさしい日本語のルールとポイントについては 別冊の「基本と実践」と重複した内容を 掲載しています

3

緊急時によく使われる言葉や日常生活に不可欠な言葉は
そのまま使って〈〉を使って分かりやすい表現で説明する

避難所 → 避難所〈にげるところ〉
 受給証 → 受給証〈支給を受ける人が持つ紙〉
 立入禁止 → 立入禁止〈中に 入らないでください〉

4

外来語、和製英語を用いるときは気を付ける
 (○は比較的伝わりやすいもの、×は外国人に伝わりにくいもの)

○ → ガス、テレビ、バス
 × → ライフライン、パソコン、アルバイト

5

ローマ字は伝わりにくいので避ける

“グラグラ”



6

擬音語、擬態語は外国人に伝わりにくいので避ける
 (知的障害のある人や幼児には伝わりやすい表現となります)

→ ガサガサ、グラグラ、キラキラ 等

7

漢字やカタカナにはルビ(ふりがな)を振る
 (全部ひらがなにしてしまうとかえって読みにくくなることがあります)
 同音異義語がある言葉は漢字で表現してルビを振ります。

8

日時の表現は分かりやすくする

西暦で表記するか、和暦を用いなければいけない文書では西暦と併記する。
 外国人や知的障害のある人の中には24時間表記が理解しづらい人がいます。
 12時間表記をするか24時間表記と併記するようにしましょう。
 ○○時から とききたいときは ～ を用いずに「○○時から」と書く

○ → 2018年 4月6日 午後4時から
 × → 平成30年 4/6 16:00～

やさしい日本語のルールとポイントについては 別冊の「基本と実践」と重複した内容を 掲載しています

9

動詞を名詞化した表現は分かりにくいのでできるだけ動詞で表現する

地震の揺れがあった → 地震^{じ しん}で 揺れた^ゆ
事故により電車で遅れが生じた → 事故^{じ こ}で 電車^{でんしゃ}が 遅れた^{おそ}

10

あいまいな表現や、「おそらく」「たぶん」等の表現を避ける
断定を避けたいときは「かもしれません」で言い換える

台風の恐れがあります → 台風^{たいふう}が 来る^くかもしれません
おそらく台風は日本に上陸するものと思われます
→ 台風^{たいふう}が 来る^くかもしれません

11

二重否定、部分否定は避ける

急がないと間に合わない → 急ぎ^{いそ}ましょう
18歳未満の方はご利用をご遠慮ください
→ 18歳^{さい}以上^{いじょう}は 使え^{つか}ます
この食べ物は食べられなくはないかもしれない
→ 食べる^たのは やめ^めましょう

12

文末表現はできるだけ統一する

可能な表現 れる・られる → することができます
推量の表現 ～でしょう → かもしれません
指示の表現 ～していただけるようお願い申し上げます → ～してください
〇〇市でも△△の被害に遭わないよう地域住民に注意を喚起しているところです
→ △△に^{ちゅうい} 注意^{ちゅうい}してください
→ △△に^き 気^きをつけてください

ここで 示したルールが書かれた冊子(交通安全の冊子)は
下記のサイトから 無料でダウンロードできます

わわのわ福祉アカデミア <https://wawanowa.com/> で無償公開
「わわのわ福祉アカデミア 障がい児・者のための交通安全」で検索
(冊子 障がい児・者のための交通安全 の P52-P54)



やさしい日本語のポイント

結論をはじめに言う 情報量をしぼる

(どんな話? 誰のための話? 私は なにをすればいいの?)

みなさんが 外国語を 習得しようとするときのことを 想像してみましょう

たとえば 学校で学んだ 英語の 長文読解を 思い出してください。

長い文章を 読むことは 基本を学んでいる 初級段階の 学習者には むずかしいことです
聞き取りでも 早口で たくさんのことを いっぺんに 言われると 聞き取ることは
むずかしくなります

同じように 日本語を あまり読めない 聞き取れない人は 長い文章や 長い会話から
正確な意味を理解することは むずかしく 情報量が多くなるほど つかれてしまいます
時候のあいさつや 前置きが長い文章では

その話題が 自分に関係する話なのかどうかも わからないまま 読むことになります
せっかく 辞書を引きながら 読んでも 自分に関係ない話だと がっかりします

会話の場合も 何の話か分からないまま 聞かされていると

途中で 聞くことに 疲れて 意味を考えるのを 聞くことを やめてしまうこともあります
まず その情報が 何についての 話題なのか 結論は何なのか 伝えましょう

(どんな話? 誰のための話? 私は 何をすればいいの? ということがわかるように)

そして 本当に 伝える必要がある情報にしばって 補足情報を みじかく 伝えましょう



避難所で 食事の配給を 伝えるときの 例

たべものが ただで もらえます (一番 言いたいことを 初めに言う)

(その後 必要最小限の 補足情報を 追加する)

補
足
情
報

- | | | |
|---|-------------------------|--------|
| ① | 避難所(ひなんじょ)に いるひとが もらえます | 誰が 対象か |
| ② | ひとり ひとつだけ もらえます | 条件・制限 |
| ③ | あさ 9じに いりぐちに きてください | 時間・場所 |

難しい漢字でも ルビがふってあると 辞書を引いて 意味を 調べることが できます
漢字を読むことが 難しい人には できるだけ 漢字に ルビを ふりましょう

やさしい日本語のルールとポイントについては 別冊の「基本と実践」と重複した内容を 掲載しています

はさみの法則

やさしい日本語、わかりやすく伝えるための ポイントとして

- ① はっきり いう
- ② さいごまで いう
- ③ みじかく いう

という 3つの点が あります

それぞれの 頭の文字を取って「はさみの法則」と 呼ばれています

わかりにくい例と 改善例から そのちがいを みてみましょう

伝わりづらい例

「あいまい」「長い」「結論がわからない」

「ちょっと このあいだの 田中さんの

例の あれのことなんだけどね なんか うまくいってないらしくて…

こんなことって わるいんだけど もし～〇〇さんに～

今日 お時間が あったらで いいんだけど～…どうかな？」

改善例

はじめに結論を言う 端的に 短く伝える

田中さんの しごとを（あなたに）してほしいです

今日 そのしごとを してください。

そのしごとは ●●と △△です。

（余裕があれば 仕事を頼む理由＝[田中さんの都合が悪くなったから] を伝える）

防災編



ハンディキャップが ある人の 防災

非常時に 困ること

病気や 障がいにより

歩行に困難のある人 目や耳が不自由な人 難しい言葉の理解が 難しい人など

なんらかのハンディキャップを 抱えている人は

災害が 発生した時に 一般の人よりも 身の安全を 守ることが 難しくなります

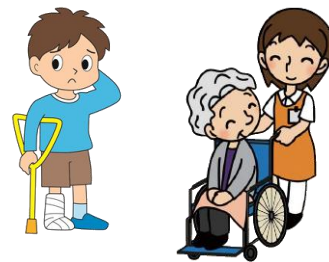
ふだんは 健康な人や

制度上の意味で「障がい」がないとされる人でも

災害による **けがで 歩行が 難しくなった場合**や

感染症などで **体調が悪化している時**は

思っているよりも **避難行動が 難しくなります**



平常時は 持病や 障がいによる 困りごとを 抱えていない人でも

その時の 体調や 身体の状態によっては

誰もが 同じ 困りごとを抱える可能性があります

そう考えると ハンディキャップのある人の

災害時の 課題の解決を 考えることは

すべての人にとって 大切なことといえます

やさしい日本語との 関連でいえば

災害時に 必要な情報が 得られないことや

会話や 意思疎通が難しいことによって

不利益が 生じないようにするために

わかりやすく 伝えることが 大切になります



段階別の 困りごと

ハンディキャップがある人の 災害について考えるにあたって
はじめに どんな時に どんな困りごとがあるかについて 整理しましょう

災害時の困りごとは 災害が起こった時だけに 生じるとは限りません
大きく分けると

① 平常時 ② 災害発生直後 ③ 避難行動時 ④ 避難後の生活
と さまざまな場面や さまざまな段階で それぞれ 異なる困りごとがあります

① 平常時の 困りごと（備え 防災教育・訓練）

平常時の困りごとでは 災害の備えや 教育・訓練の場面で 起こります
体が不自由な人が 部屋の家具の 転倒・転落対策を しようとした時
誰かの助けが 必要になります
判断力が弱い人（認知症の方や 知的なハンディキャップがある人）は
どんな対策をすればいいのか 必要なものを どのようにそろえればいいのか
自分一人の力で 考えることが 難しくなります

防災教育の場面でも 会話を理解することや
周りの状況を 理解することが 難しい人には
わかりやすく 伝える必要があります

「この人には言っても 理解できないので無理」
「どうせできないから 参加しても無駄」
「周りの人の 負担が大きい」
などの理由で ハンディキャップがある人が
避難訓練への参加を 断られることや
教わる機会を 与えてもらえないことが あります



避難経路など 一度も 通ったことがない場所を 災害時に 移動しようとした時
怖がって 騒ぐことや びっくりして体が固まること にげだすことがあります
一度 体験をしておくことで 本人も 心の準備ができます
家族や 周りの人も 一度 ハンディキャップがある人と ともに
訓練し 学ぶことで 思わぬ課題が 見つかることもあります
無駄だと 決めつけずに 参加できる方法を 一緒に 考えてみましょう

② 災害発生後の 困りごと

移動	水平・垂直移動 扉の開閉 フリーズ・パニック
情報	聞こえない 見えない 読めない 状況を理解できない
意思疎通	しゃべれない 会話が成立しない 名前を言えない 支援の必要性が理解されない
生活	排泄・食事・入浴・身体の清潔・ 医療的ケア・着替え・睡眠

次に 災害発生直後の 困りごとについて 考えてみましょう

なんらかのハンディキャップがある人は 災害が起こった時に

自分の力だけで 命を守る行動を とることが難しいことがあります

手や足が不自由な人は **扉の開閉や移動などの 避難行動**が難しくなります

目や耳が不自由な人は **災害の状況を確認すること 文字情報を 読み取ること**

音声アナウンスから 情報を確認することが 難しくなります

理解力や 判断力の乏しい人は

何が起こったのか どこへ避難すればいいのかを 理解することが難しくなります

避難する時も 会話や 意思疎通が難しい人は

周りの人に助けをもとめることや 家族に連絡をすること

自分の名前や 抱えている病気 アレルギー 特性(必要な支援)を

伝えることが 難しくなります

避難した後も なんらかの病気や 障がいや ハンディキャップを抱えている人は

食事や排せつ 着替え 入浴や歯みがきなどで身体の清潔を保つことが

難しくなります

大きく分けて「**移動**」「**情報を得ること**」「**意思疎通**」「**避難後の生活**」の場面で

さまざまな困りごとがあることを 知っておきましょう

③ 避難生活

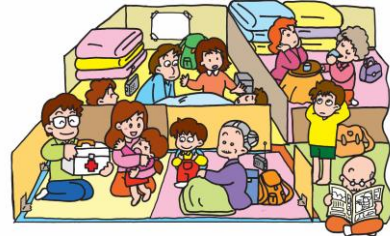
ハンディキャップがある人の 避難生活では さまざまな困りごとが 起こります

避難直後の困りごと (短期)

長引く生活による困りごと(中期)

新しい生活を再建するための困りごと(長期) の

それぞれの段階で 困りごとは変わってきます



避難直後の場面では 家族や支援者への連絡

医療的ケアに必要な 電源や薬の調達

補助犬の餌の調達 医療器具や 補装具・日常生活用具などの確保

なれない環境による パニックへの対応

食事や排せつなどの課題への対応や 介助をしてくれる人の確保 といった

なれない避難生活に適應するための 緊急の対応が必要となります

避難先での 生活が少し落ち着いてくると

持病の悪化や コンディションの低下を 防ぐためのケアや 環境調整

栄養状態の改善 運動による体力の維持

必要な医療や リハビリテーション 支援を受けるための相談や申請手続き

(医療・福祉サービスの利用手続き)

罹災証明などの 行政的な手続きや 経済的な困りごとへの対応が

大きな課題として 浮かび上がってきます

さらに 避難生活が長引くと

次は 生活再建や 学校生活への復帰

進学や 就労 起業など 新たな生活に向けた 準備も 課題としてでてきます

大きな災害の場合 適切な医療や支援を 被災地で受けることが 難しいという理由で

住んだことがない地域に 引っ越す必要がある場合もあります

自治体が変わると 今まで受けられていた支援が 利用できないことや

引っ越し先の 自治体にある 独特のルールに とまどうこともできます

専門的な知識や スキルを持つ人の助けが 必要になる場面も 多くあります

本人や 家族だけではなく 多くの人と ともに 考えることが 大切です

○ 避難所での 食事に関する 課題

・ 特殊な食品

とろみ食 アレルギー食 離乳食など **特殊な食品**を 必要とする人がいます
避難所の備蓄として すべての人のニーズに 対応することは 現実的に困難です
避難所では どのような食品が どの程度 備蓄されているか 確認しておきます
基本的に 特殊な食品は 各自で 備えておくよう 周知しておきましょう

宗教上 禁止されているもの※1 禁止されている成分※2が 含まれるものは
食べることが出来ません

※1 イスラム教におけるハラーム食品 豚肉やみりん アルコールなど ※2 ポークエキスなど

イスラム教で 食べることが 許されているものを ハラル(Halal)食品
禁じられているものを ハラーム(Haram)食品と いいます

外国にルーツのある人が 多い地域では
備蓄品のうち 宗教上 口にできるものかどうか

ピクトグラムや やさしい日本語で

わかりやすく 表記しておくことも 大切です

・ 異食

食べ物でないもの(補聴器や 電池 紙など)を
食べてしまうことを 異食と 言います
認知症の 高齢者や 幼児に見られる行動です
配慮の必要な人が 多く集まる 避難所では 注意が 必要です



○ 避難所での 排泄に関する課題

排泄に 介助を 必要とする人がいます

周囲に迷惑をかけないように 水分をとることを 控えて
脱水症状や 熱中症に なることもあります



また 避難後 すぐに対応することは困難なこともあります
可能な限り **同性介助**(同じ性別の支援者による介助)が
望ましい対応です



認知症のある高齢者や 知的なハンディキャップのある人の中には
トイレがどこにあるか わかりづらい人もいます
案内図や 矢印 ピクトグラム などで 場所を わかりやすくしておきましょう

生活に必要な基盤（電気や水道など）が 使えなくなったら

大きな災害が起こると **水や電気 電話 ネット ガス**

公共交通機関が 使えなくなることがあります

ハンディキャップがある人は どんなことで 困るか 整理してみましょう

- **水** 薬を飲む 身体の清潔・清拭 口腔ケア トイレ 食事
- **電気** 医療ケア 高層階のエレベーター スマホ等の充電
(→情報を得る・助けを求めることが難しくなる)
- **電話** 安否確認 施設や学校のお休みの確認 救助や応援の要請
- **ネット** 情報収集 youtube等の動画 タブレット アプリの利用
- **ガス** 食事 入浴 ガス漏れによる通電時の火災
- **渋滞** 帰宅困難 時刻表通りに来ない電車・バス
振替輸送への適応 送迎

電力が必要な医療機器が 必要な人 **薬を飲むための水**が 必要な人など
病気や障がいによって 治療やケアが 必要な人は 大きな災害が起こると
生命や 健康の維持に 関わる 困りごとを 抱えます

停電で エレベーターが 止まると

歩行が困難な人は 移動することが より 難しくなります

災害の影響で **公共交通機関が 使えなくなる**ことや
水害や 地震によって **車での移動が 難しくなる**こともあります
ふだん 電車やバス 送迎車を 移動に利用している人は
家に帰ることも 利用している施設に 移動することも 難しくなります

判断力や 理解力が乏しい人にとっては

いつもと違う電車に乗ること いつもと違う駅で降りること

振替輸送で バスやタクシーなど 別の移動方法を 利用することが
難しい場合もあります

いつも **きまった時間に きまった行動をする**傾向のある人の場合

いつもと 同じ駅で 乗り降りする場合でも

災害によって 乗り降りの時間が 変わると 混乱してしまうことも あります



ハンディキャップ別の 困りごと例

一般の人よりも 音や におい 味 痛み 肌ざわり などの
感覚が鋭い人が います

このような 特性を **感覚過敏** といいます

反対に 人よりも 痛みなどの 感覚が 鈍い人もいます

感覚が鈍い 特性を **感覚鈍麻**と いいます

○ 音に過敏な人の 困りごと

非常ベルやサイレン 拡声器での呼びかけに対して

不安を覚えることや 極度の拒否反応を 示すことがあります

避難所など 多くの人が 集まる場所での **ざわざわした音**が 苦手な人も います

非常ベルの音に驚いて **避難訓練に 参加できない人も** います

—対策—

イヤーマフ(耳あて)や ノイズキャンセリングイヤホンなどの 支援グッズで
不快感を軽減できることがあります

大きな声で 話しかけられと 怖がる人もいます

耳をふさぐ などの 拒絶する反応がある場合は

音量を抑えて やさしく話しかけましょう



非常ベルを 怖がる人の場合 いきなり 音を聞かせるのではなく
まず どこから音が出るのかを伝えて

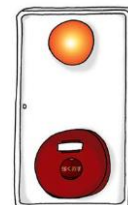
その音が **命を守る 大切な音**だということを わかってもらいます

その後 録音した 非常ベルの音を 小さな音で 鳴らして

「ここから こんな音がでます」と教えることで

恐怖感を 軽減しながら 非常ベルの意味を

わかってもらうことが できます

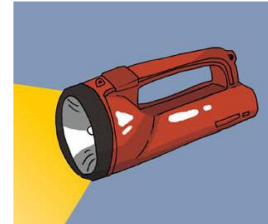


○ 光に 強く反応する人の 困りごと

いきなり 懐中電灯を 顔に向けられたり
暗い部屋で 急に明かりを つけられたりすると
ショックを受けて 気分が悪くなることがあります

—対策—

防災教室などで ビデオの視聴後
急に 室内の明るさを 変える場合は
事前に説明してから 点灯する
明かりはつけるが カーテンは 閉めたままにしておく
体調不良の 訴えがあった場合は 別室に誘導して
休憩させるなどの 対応をしましょう



○ においに 強く反応する人の 困りごと

煙や物が 燃えるにおいや ゴムのにおいなどで
体調が 悪くなることが あります
防災訓練で 逃避行動や 拒否反応が見られたときに
無理に 参加を促すと
その後 二度と訓練に 参加しなくなることもあります

—対策—

嫌がる刺激から遠ざけて
体調が悪いようなら 別の場所で休憩させます



○ 災害時の 写真や映像に 強いショックを受け 後に 悪影響が出る
津波の光景や 倒壊した家の写真 映像を見ることで
体調が悪くなることがあります
泣き出す その後 何度も 思い出して 不安になる、
自分が 同じ目に あうと思い 眠れなくなる 夜中に騒ぎ出す
おねしょを するなどの 悪影響が 出ることがあります



—対策—

衝撃的な 画像や 映像のかわりに
デフォルメした イラストを 用いることで
ショックを やわらげることが できます

○ 痛みや 熱さに 鈍感

骨折していても **痛みの感覚が鈍い**ため 本人も気づいていないことがあります
けがはないかたずねても 本人は 大丈夫だと思っているので
支援や 治療の必要性を 見落とされることがあります
コンロの火が きれいだと思い さわろうとして
熱さを感じにくいので しばらく 火に触れて やけどしてしまうこともあります

—対策—

このような傾向のある人の場合

本人が平気だと言っても 服装に汚れや乱れがないか
傷はないか 確認しましょう

言われた言葉を そのまま繰り返す人や
どんな質問でも「はい」と答える人もいます

「だいじょうぶ？」「けがはない？」という 聞き方をすると

事実とは無関係に 反復や肯定すると 支援の必要性を 見落としやすくなります

「痛いところはある？」「なにか困ったことはある？」

という聞き方をすると 支援の必要性を 見落としにくくなります



火など**危険なものに触ってしまう人**の場合

危険な場所に ×マークをつける 「さわらない」と書いた紙を 貼るなどの
対応をすると 危険な行動を しにくくなります

やさしい日本語では 「否定形の文章は わかりづらいのでなるべく避ける」

ということが 推奨されますが

身体や生命の危険がある場合は 否定形で 「さわらない！」と

強調した方が 伝わりやすくなります

○ 緊張すると 笑顔になる

実際に感じている感情と 顔の表情が 連動しない人がいます

本人は とても 怖い思いを しているのに

顔の表情が 笑顔に見えるため

避難訓練などで 「ふざけている」「まじめにやっていない」

と 誤解されて 叱責され よけい混乱してしまうことがあります

—対策—

避難訓練や 防災教室に 関わる人は

そういう人が いるということを 理解しておきましょう

○ 言葉を 文字通り受け取る

「避難中 **しゃべらない**」と教わると

閉じ込められて 助けを求めなければいけない状況では

一言も話さなくなる 人がいます

「**しずかに にげましょう**」と

望ましい行動を 肯定文で 伝えると 誤解しにくくなります

「**しゃべっていたら 先生(または防災無線など)が 聞こえません**」

のように 理由を 説明すると 納得しやすくなります



「地震が起きたら つくえの下へ 行きます」

と教わると 広場などの 安全な場所にいても

つくえの下に 隠れるために 危険な建物に入る人がいます

誤解を 避けるためには

「頭を守りましょう」と

つくえの下に 隠れる 本来の目的を 説明します

そして

「その方法には 机の下に隠れる方法があります」

「物が落ちてこない安全な場所に 行く方法もあります」

と 目的のための 方法を 丁寧に 教えるようにします



○ おどしの言葉で 悪影響が出る

「(まじめでないように見える子に)あなたみたいな子は 誰も 助けてくれないよ」

「そんなことしてたら 本当の地震がきたら 死ぬよ」

のような おどしの言葉を使って 指導すると

言葉を 文字通り 受け取る傾向のある人は

体が固まって 身動きが 取れなくなることや

災害を恐れて 外出できなくなること 学校に 行けなくなることがあります

「今日学んだことを 覚えていると 安心です」

「学校には 先生もいるので 落ち着いて にげましょう」

のように 肯定的に 安心させるような 指導をした方が

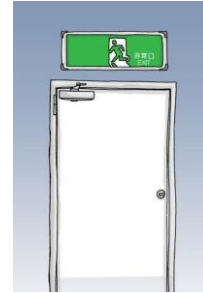
このような傾向が みられる子には 伝わりやすくなります

知的なハンディキャップや こだわりの強い人の 困りごと

○避難経路を覚えにくい

避難経路を 覚えることが難しい人がいます

大きな建物の場合 火事の際の 避難経路（下に逃げる）と
津波の際の 避難経路（上に逃げる）が 違うことがあります
避難訓練で 火災の 訓練を何度もしていたので
津波の際も 下に逃げようとする ケースがあります



—対策—

支援施設や 学校など 特別な支援を要する子どもが
多く 利用する施設では 避難経路の廊下や 扉に
番号を付ける 色のついた紙を貼る などして
「2ばんの とびらを とおります そのあと 3ばんの ろうかを とおります」
「みどりの とびらを とおります」
と 伝えることで 理解しやすくなります
教室で 教える時も 逃げる場所の写真や 経路の動画を 見せることで
理解を 促しやすくなります

火災と 津波で 避難経路が違う施設の場合

火災の避難経路には 赤い紙や火の絵に 番号を付けて
津波の避難経路には 青い紙や水の絵に 番号を付けて
「火事の際は 赤い方に 逃げましょう」
「津波の際は 青い方に 逃げましょう」
と教えることが 理解しやすくなります

急な予定の変更に 適応しづらい人

○ 抜き打ちの訓練に 戸惑う

地震のような 災害は 突然 起こるものです
学校の 防災訓練では いつ 訓練を開始するか
子どもに教えずに 抜き打ちで 行うことがあります
急な予定の変更に 適応しづらい子どもは 苦痛に感じて
訓練に参加できないことや 訓練の日に 欠席してしまうことが あります
このような傾向のある子どもは 「見通し」を 立ててあげることで
参加しやすく なります

こだわりの強さ によって 生じる課題

—食事—

○ 食感

パサパサしたものなど **特定の食感のある 食べ物が 食べられない**人がいます
わがまま だと 思われがちですが
空腹でも 一切 口にできないことも あります



○ 缶詰など 中身のわからない食べ物が 食べられない
缶詰のように **開けてみないと 中身がわからない食べ物**や
原材料が何か わからない食べ物を 口にすることができない人がいます

いつも 食べているものと 同じ中身の商品でも
非常食用で パッケージが変わると 食べられなくなる人もいます

備蓄する食品は **いつも 食べている物と同じ商品**を 備えておきましょう
缶詰が 苦手な人でも 家族が 食卓で 缶詰をあけて たべている光景を
何度も 見ることで 食べられるようになることも あります

—防災イベント—

○ 勝ち負けにこだわる

防災のイベントの中には ゲームやあそびを通して 学ぶものがあります
勝ち負けにこだわってしまう人の場合
他の参加者と喧嘩することや なきだしたりすることがあります
「ゲームの参加は 順番でやるので 次の人と 交替しましょう」と
うながしても 勝つまで ゲームをやめようとしなないこともあります

楽しい企画をすることは 大切ですが
このような 特性のある人には
得点や 勝ち負けのないゲームを 提案することも必要です

多動傾向のある人

○ 行方不明

東日本大震災では

障がい(特に 知的なハンディキャップや自閉症傾向)のある人が
たくさん **行方不明**になりました

地震で 閉じ込められないように 開けた扉から飛び出す
使い慣れたトイレを 利用しようとして 勝手にいなくなる
大切なものを 取りに戻る
消防車や 救急車を追いかける



など 行方不明になる きっかけは さまざまです

一度 避難しても 戻ってしまうこともあるので
安全な場所に 避難した後も **見守ることが** 大切です



○ 待つことが苦手

ここでまってね

「ここ」が指し示す 範囲がわからず

同じ建物の中なら 移動してもいいと 勘違いして
居なくなることもあります

「このイスに 座って 待っててね」

のように 具体的な 指示を出した方が 伝わりやすくなります

基本的に 多動傾向のある人は 誰かが 見守ってあげた方が 良いでしょう

○ 交通事故

地震の後に **開けた扉から 子どもが 飛び出してしまう**ことがあります

扉の先が 交通量の多い 道路の場合 車にはねられるケースがあります

「防災」というと 大規模災害のことだけを 想定しがちですが

震度3くらいの 地震でも 飛び出しによる 交通事故が

発生したケースもあるので さまざまな ケースを 考えて 対策しましょう

見通しの 立て方

いつ（いつまで） どこで なにをするか を

わかりやすく 伝えることで 落ち着いて 参加しやすくなります

見通しには「時間」「場所」「内容(情報)」に関する 見通しの立て方があります

時間	いつはじまり いつ終わるか 今の時刻 残り時間
場所	何をする場所か どこで待つか 自分の席
情報	その日に 何をするか 何のためにするか きまり

時間に関する見通しには 次の情報を わかりやすく 伝えます

いつはじまり いつ終わるか	スケジュール表
今の時刻	時計を 見える位置に 設置
残り時間	板書等で 今何をする時間か や 進捗状況を明示

右は スケジュール表を用いた

配慮の例です

スケジュール表を ホワイトボードに 貼り

マグネットで 今 やっていること と

進捗状況を 示すことで

次に 何をするか

いつ 終わるのかを

理解 しやすくなります

はじまり	
あいさつ	
きまり の せつめい	
● じしん の おはなし	
きもち を つたえよう	
きゆうけい	
たすけて の れんしゅう	
にげる れんしゅう	
きゆうけい	
カード で まなぼう	
おさらい	
おしまい	

多動傾向のある子への 情報の出し方

多動傾向のある子には「話題を 次々と 切り替えて すばやく 展開する」
「絵や 画像 動画を 短い時間で 次々と 見せる」ことで
集中力を 持続させやすくなります

多動傾向のある子と 考えるのに 時間を 要する子が両方いる時は
考えるのに 時間を 要する子に ペースをあわせて
多動傾向のある子には
タイムキーパーなどの 役割を与えることで
比較的 多くの子が 参加しやすくなります

場所に関する 見通しの 立て方

場所の 見通しの立て方(どこで待つかなど)には 次の例があります

場所の目的を 明確化	(例) 座学で話を聞く部屋と 体を動かす部屋を分ける
列に並ぶ	白線を引く 足元マーク
待機場所 避難目的地	色付きマット・レジャーシート ロープを輪っかにして置く

きまりの明示

目に見えるところに
きまりを 書いた紙を 貼ることや
きまりを 書いたプリントを わたすことで
落ち着いて 話を 聞きやすくなります
きまりの数は
年齢や発達段階に 応じて
覚えられる程度の 数にしましょう

き ま り

おはなし したいとき は
て を あげます



あてられた ひと は
おはなしマーク を もちます

ほか の ひと は
おはなし している ひと を みます



おはなし が おわったら
おはなしマーク を かえます

きぶん が わるく なったら
ちかく の おとな の ひと に つたえます



事前学習

急な予定の変更に 適応しづらい子

言葉を 文字通り 受け取る傾向が ある子には

訓練や 防災教室の前に 事前学習をすることが 効果的です

訓練や防災イベント当日よりも 前に

いつ どこで どんなことを 何のために するのか

説明して 理解させておくことや

スケジュール表を 渡しておくこと 会場の 写真や 動画を 見せておくことで

不安を やわらげやすくなります

可能であれば 前回の様子 できれば 参加者が 楽しんでいる様子を

見せておくと 安心して 参加しやすくなります

急な予定の変更に 適応しづらい子には できるだけ

抜き打ち型の訓練は 避けて どうしても 抜き打ち訓練を する場合は

このような傾向のある子には 事前に 内容や 時間を伝えておきます

非常ベルの役割 鳴る場所 鳴らす時間を

伝えておくことも 検討した方が良いでしょう

休める スペースを 用意しておき つらくなったら 休憩できることや

まわりのおとなに 相談すれば 部屋から 退出してもよいことを

事前に伝えておくと 安心しやすくなります

可能であれば 終了後のお楽しみを 用意して 伝えておきましょう

(終了後 修了をたたえる メダルや バッジがもらえる など)

※ 終わった後に 楽しみがあることを 前もって 知っていると

訓練等の 不安を 解消しやすくなります

嫌がる子を 無理に参加させて 災害への恐怖心を植え付けても

悪影響が出るだけであまり 良いことはありません

安全に行動する力を 身につけることが 訓練や教育の 目的です

そのためには より多くの子が 参加できるような

環境の調整が 重要になります

外国にルーツのある人への 配慮

○ 避難所の利用や 救援物資を 受け取るのに お金があると 誤解している
日本の文化に なれしただけの人であれば
暗黙の了解で わかることでも 日本の制度や文化を よく知らない人は
避難所の利用が 有料であると 誤解していることがあります

^{むりよう}
「無料で つかえます」「お金は いりません」

と わかりやすく 書いておくことで
利用しやすくなります



○ 「ご自由に お取りください」を誤解する
「ご自由に お取りください」という表現は
日本語を うまく話せない人にとっては 難しい表現です
「自由に取っていいのだから いくつでも 持って行って良い」と誤解して
一人で 大量の支援物資を 持っていこうとする人もいます

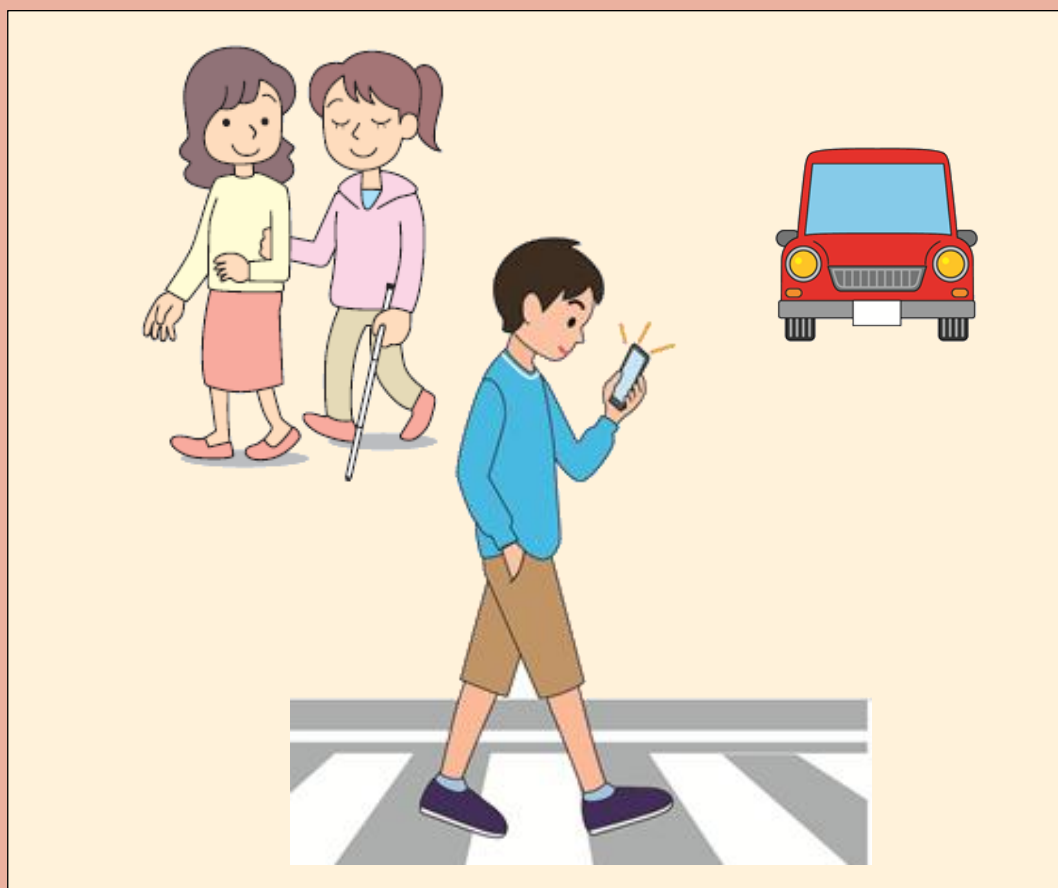
「だれでも もらえます」「ひとり 1こだけ もらえます」
のように わかりやすく 誤解をしないような 表現の方が
伝わりやすくなります
「ご遠慮ください」「お控えください」も伝わりにくい表現です
「～しないでください」の方が 伝わりやすくなります

○ 救急車や 消防車を呼ぶのに お金がかかると 思いこんでいる
日本の文化や 制度に なじみのない人は
救急車を 呼ぶだけで 高額の料金を 請求されてしまうと
誤解していることが あります

○ 「土足厳禁」「立入禁止」などの四文字熟語
四文字熟語は 難しい表現です
「くつを めいで ください」「はいらしないで ください」
のように わかりやすい表現をした方が
伝わりやすくなります
靴などのイラストを 横に書いておくこと
より 伝わりやすくなります



交通安全編

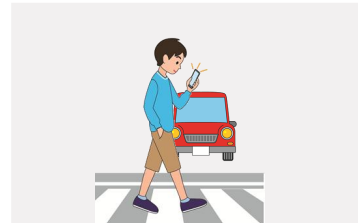


ハンディキャップがある人の 交通安全

目や耳が不自由な人 歩行が不自由な人や 車いすに乗っている人
知的なハンディキャップがある人 多動や 不注意の傾向がある人は
日常的な 移動の場面でも 多くの困難を 抱えています

やさしい日本語との 関係で言えば 防災教育と同じように
伝え方によって 子どもが 言葉を
違う意味に 受け取る ことがあります

ここでは 交通安全や 事故予防のための わかりやすい伝え方と
ハンディキャップがある人が 移動の場面で抱える 困難を 紹介します



具体的な 困りごと

○「横断歩道を わたるときは 左右を みましょう」で 誤解する

言葉を 文字通り受け取る 傾向のある人は

「左右を 見てから(確認してから) わたしましょう」

と 教わると 頭を 左と右に 動かすだけで 車を見ず

車が せまっていても 気づかずに そのまま わたろうとすることが あります

「車(バイク・自転車)が きてたら 待ちます(とまります)」と

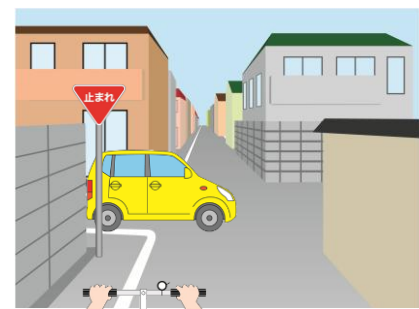
左右を なぜ 見る必要があるのか 丁寧に 説明した方が 伝わりやすくなります

「次に来る 車は 何色だと 思う？」

「今度来るのは バイクかな？車かな？自転車かな？」

のように クイズ形式で 話しかけると

車や バイクに 意識を 向けやすくなります



○ 人や物に よくぶつかる(距離感がつかみづらい)

空間認知能力が 低いために

自分の体の大きさと 周囲にあるものとの

距離感を つかむことが 苦手な人がいます

そのため 自分の周囲にあるものと

どのくらいの 距離を保てばいいかという

イメージすることが 難しくなります

傘や かばんなど 自分の持ち物や 自転車の大きさと

周囲にあるものとの 距離をとることに 失敗しやすくなります



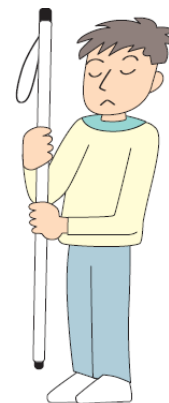
○ クラクションや 自転車のベルに 気づかない
車や自転車を 運転している人の 中には
クラクションや ベルを鳴らせば 相手が よけてくれると
思い込んでいる人が います
しかし 聴覚に 障がいのある人は
車のクラクションや 自転車のベルを 鳴らしても
気づかないことが あります
クラクションや ベルが 聞こえない可能性も考えて
安全な 運転を 心がけるように しましょう



○ 点字ブロックや 避難経路に 置かれた 障がい物
違法駐車や 放置自転車が
道や 通路に 置かれていると
視覚に 障がいのある人 や 身体に障がいにある人は
とても 困ります
自分と 物との 距離感を つかみづらい人にとっても
危険な 存在と なります
特に 点字ブロックの近くには 物を置かないように しましょう



○ 「困っています」の サイン（視覚障がいのある人）
白杖（はくじょう 白い つえ）を 持っている人は
視覚に 障あぎが ある人です
白杖を 頭の上に かかっているときは
助けを 求めている サインです
白杖を かかげていなくても
困っている様子が 見られるときは
声かけしてください



駅や 施設では
近くの駅員や 職員の方に
困っている人がいることを 伝えるだけでも とても 助かります

○ 押しボタン式信号の前で 長時間待ち続ける
知的なハンディキャップがある人の中には
押しボタン式信号の 仕組みが 理解できず
長時間 信号の前で 待ってしまう人が います



ボタンを押すと 信号が変わることを 教えると
中には 踏切や 駅の 非常停止ボタンを
非常ベルを 押そうとする人も います



押しボタン信号の 仕組みが 理解できる人には
仕組みを教えましょう

教えても どうしても 理解が 難しい人の場合は
「移動ルートを変える」
「誰かが 付き添う」 形をとった方がいいでしょう

○ 歩車分離式などの 複雑な信号に とまどう
歩車分離式の信号で
歩行者の 信号が 赤なのに
車の信号を見て わたろうする
人がいます



知的なハンディキャップのある人の中には
信号の意味を 形や 位置で
覚えている人がいます



そのような人は 見慣れない形の信号
たとえば 上から 赤 黄 青 の
縦型の 信号を見ると
(積雪地域で よく 見られます)
とまどってしまう人が います



どうしても 理解が 難しい場合は
ルートを 変えるか
誰かが 付き添うようにした方が
いいでしょう

○ 信号の色(青 緑)にこだわる

信号の色が 青信号のことを 教わると

実際には (現代の色感覚で言うところの)

緑色であることに とまどってしまう人がいます

最近では 青色 LED の 登場で

本当に 青く見える 青信号も あります

すると 青色に見える 青信号と

緑色に見える 青信号の違いで

混乱してしまうことも あります



どうしても 青信号が 青色ではないことにこだわって

「青信号ではなく 緑信号と呼ぶべきだ」

という主張を 曲げないようであれば

「緑信号は 進んでも 良いという 意味です」

と 相手の主張に あわせて 教えましょう

それで 納得して 事故を 防げるのであれば それにこしたことは ありません

○ 深夜・早朝に 機能しない 音響付信号機

視覚に 障がいのある人でも わかりやすいように

青信号になると 音が鳴る 音響付信号機というものがあります

音響式信号機のある 交差点の中には

近所の方への 配慮から 深夜や早朝などの 時間帯には

音が 鳴らないところも あります

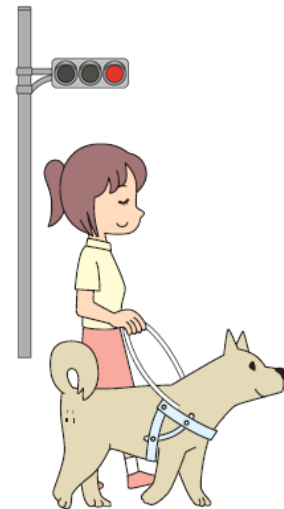
日中に よく 使う交差点で

昼間は 音を手がかりに 横断している人が

いつもと 違う時間帯に 早めに 外出する場合

危険なことが あります

(実際に 事故も発生しています)



時間帯によって 機能が変わる 信号については

どこにあるか 本人や家族 支援者が 確かめておいた方が 良いでしょう

また 地域の人にも ハンディキャップのある人への 理解を深めて

お互い 暮らしやすい 地域を 作って いきましょう

○ (左)半側空間無視

頭部の強打や 病気による脳出血 溺水 首をしめる虐待

いじめや 体罰による 窒息などにより 脳に ダメージを 受けることで

体のマヒや 高次脳機能障がい(脳がうまく機能しないことによる障がい) が

生じることもあります

脳に ダメージを 受けることで

視力に 問題がなくても 見ている光景の

片側の空間を 認識しづらくなる

「**半側空間無視**」の症状が 見られることがあります

特に 右脳に 損傷がある場合 左側を 認識しづらくなる

「**左半側空間無視**」の 症状を とまなうケースが 多くあります

左半側空間無視では 左側にあるものを 認識しづらくなり

左から 人に 話しかけられても 気づかないことや

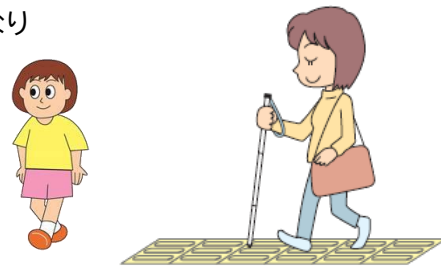
話しかけた人を 右側に 探してしまうこと

左側の壁に ぶつかること

左側の 食器にある 食べ物を 残すことがあります

軽度の場合 **本人に 自覚症状が ない場合も あります**

(ADHD の 不注意の特性と 誤診されることもあります)



本人が 自分の特性を 理解して 意識的に 頭全体を動かす習慣を 身につけると

見落としを 防ぎやすく なります

特に その人から見て 左側を 意識することが難しく

左に 置かれた 食事を残すことや

左にいる人に 気づかずに 挨拶をしないこと

歩行 自転車 や 車の運転で 左側にある障がい物や人 車に 気づかず ぶつかる

といった 事故に つながることも あります

実際に 目で 見ている光景の 左側部分だけではなく

過去に見た光景を 頭の中で 思い出そうとしたときも

想像した光景の 向かって 左側を

意識しづらくなることが あります

声かけの 仕方 や 教え方

○ ヘルプマーク

ヘルプマークは

外見だけでは 障がいのあることが わかりづらい人
配慮を 必要としている人が つけているマークです
ヘルプカードと呼ばれる ヘルプマークがついた
カード型のものや パスケース型のものがあります
裏面や パスケースの中に こまりごと
必要な支援 家族や 支援者の 連絡先が
書かれていることがあります



とても 困っている様子だけでも
対応方法が わからない場合は
放置せずに 交番や 学校などに知らせましょう
(制服や かばんなどから 学校名がわかる場合)

家族・支援者の連絡先 困りごとや 声掛けの仕方が
ヘルプマークに 書かれていないか 確認しましょう

○ 体を さわられると 騒ぐ人

誘導や ヘルプマーク等を 確認する際に
体に触れる必要があるときがあります。
いきなり 体に ふれられると
びっくりして 騒ぎだしてしまう人もいます



かばんの中身を 確認しようとしたときに
大切なものを とられると思って 騒ぐ人もいます
体や 所持品に ふれるときは
「お体にふれますね」
「かばんの中を見てもいい？」
のような声かけを するようにしてください
声かけするときも大きな声に
びっくりしてしまうことも あります
ゆっくり おだやかな口調で 話しかけてください



○ ヘルプマークに関わる トラブル

支援の必要性を まわりの人に わかってもらうための
ヘルプマークや ヘルプカードです

しかし ヘルプマークが 被害を 訴えづらい人や
助けを求めづらい人の 目印に なってしまうこともあります

たとえば 痴漢や ひったくりなど
悪意を 持った人が
抵抗しづらい人 うまく 説明できない人を
標的として 狙うことが あります

治安の悪い地域や 場所(人通りの少ない道)での移動や
移動の 時間帯(夜遅くなど)
移動手段 (満員電車など)に よっては
危険性が 高まることもあります



被害を受けた側には
何も 落ち度は ないことだし
悲しいことですが
実際に 被害を受けてしまう人もいます



本人の能力や 支援の必要性を 検討して
場合によっては 特定の場所で
ヘルプカードを しまうことが 必要な場合もあります

—対応例—

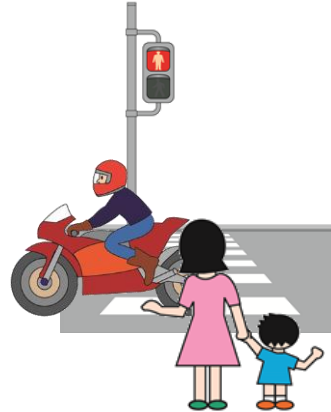
- ・ 満員電車の時間 車両 路線を避ける
- ・ 治安の悪い場所や 人通りの少ない道を よく使う 道筋から外す
- ・ 能力がある人であれば 必要のない時は かばんの中にしまう
- ・ 困って 助けを求めるときにだけ 見せるようにする
- ・ 困ったら 家族や 支援者に (スマホ等で) 助けを求めることを 教える

○ 立ち止まる位置が わからない「ちょっと 離れて」が 通じない人

横断歩道で 信号待ちを するときに
歩道と 車道の ギリギリの位置で
信号が変わるのを 待つ人が います

雨の日に 車が 水たまりの上を 通ったとき
水や どろを はねかけられることも あります

「ちょっと 離れて」といっても
「ちょっと」が どのくらいの 距離かがわからず
適切な位置で 待てないことがあります



—伝え方—

わかりやすく 伝えるには
次のような 方法があります



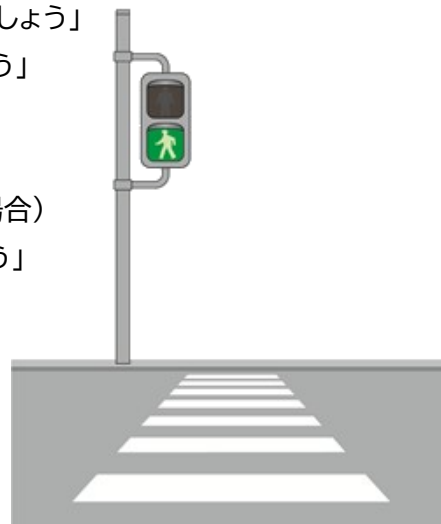
・身体を 目安に 使う

「手をのばして 歩道からはみ出ない位置 で待ちましょう」
「2 歩(小さな子の場合は3歩くらい) 下がりましょう」

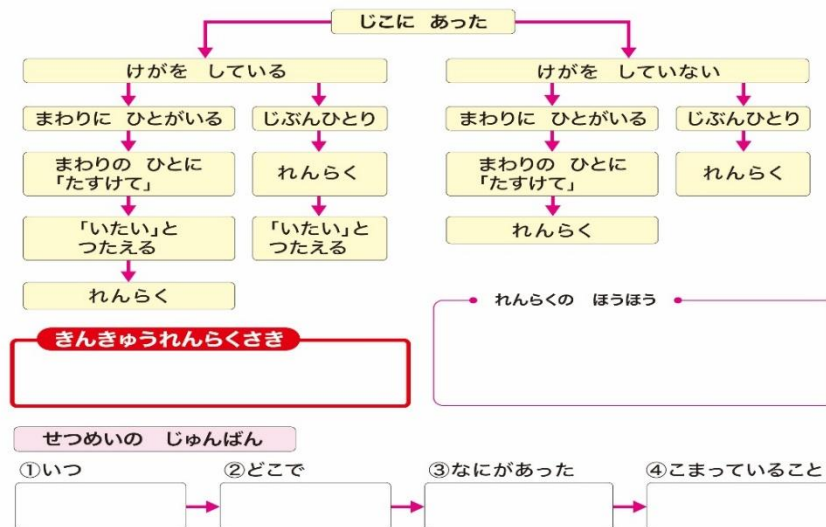
・具体的な目印を使う

(歩道に 格子状のタイルや 点字ブロックが ある場合)
「ふちのところから ○個目のタイルで 待ちましょう」
「点字ブロックの 手前の場所で 待ちましょう」

「そこにある 自動販売機の横で 待とうね」
「この木 (植え込み)の 横で 待とうね」



事故にあったら



こまったときに はなしを やすく するための え です
ゆびを さして きもちを つたえます

はい ○	いいえ ×	すこし		とても		
ごめんなさい 	いたい 	こわい 	ありがとう 	かぞく・しえんしゃを よんでください きんぎゅうれんらくさき		
わからない 	たすけて 	きぶんがわるい 	じこにあった 			

● わたしは ●

● しえんのしかた ●

のんでいる くすり (ある ない) _____
 のんでいる くすりの なまえ _____
 かかりつけの びょういん _____
 アレルギー (ある ない) アレルギーの しゅるい _____
 ● そのほか しっておいてほしいこと ● _____

(2018年度公益財団法人タカタ財団助成による成果物)

事故に あった (うたがいのある) 人で
 会話が 苦手な人から なにがあったか 聞き取るのは 難しいことです
 うまく 事情が 説明できなくて ひき逃げにあっても 泣き寝入りする人も います
 上の チャート表や コミュニケーションボードを 使うと
 会話が しゃすくなります
 コピーして 持っていると 困ったことがあったときに 便利です
 困りごとを 誰かに 伝える 訓練にも つかえます

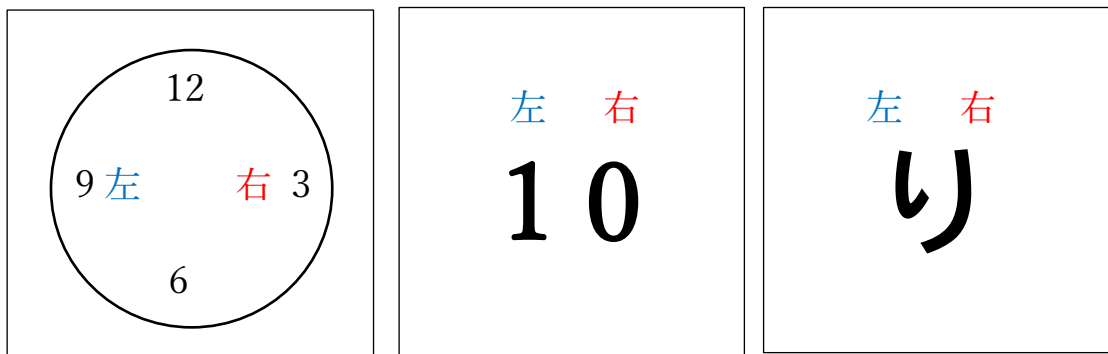
○ 左右の概念がない人

一見 知的なハンディキャップが ないように 見える人の 中にも
左右の 区別が つきづらい人がいます
中学生や 高校生で 学力はあるのに
左と右が わかりづらい人も います

このような人は「右側通行」や「左の列に並んで」といわれても
左右が わからないので 指示に従えないことがあります

昔は「おはしを 持つ方の 手」「お茶碗を 持つ方の 手」
という 教え方を していました
しかし この方法だと 左ききの人は
混乱しやすく なります
また 家庭の食卓で 向かい合っている保護者の 視覚的記憶から
保護者が おはしを 持っている方の手 と誤解することがあります
(向かい合っていれば 右手は 本人から 左側に見えます)

このような 誤解を さけるために
視覚的に イメージしやすく
必ず 一つの方角を 指し示すような 方法で 教えた方が
伝わりやすくなります



たとえば

時計の「9時」(左)／「3時」の方向(右)

数字で「10」を 書いたとき「1」の方(左)／「0」の方(右)

ひらがなで「り」を書いたとき「縦線の短い方」(左)／「長い方」(右)

などです

○ 荒天時の声かけ

雨の日は すべりやすく 転倒や 転落をしやすくなります

傘を さしていると 視界がさえぎられて 事故にあいやすくなります

多動や 不注意の 傾向がみられる人の中には

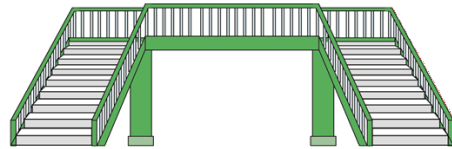
大雨の日など 天気が悪い日でも

いつもと同じような行動を

(傘をさしたまま 周囲を確認せずに 飛び出す

歩道橋を 一段飛ばしで かけあがる など)

することもあります



天気の悪い日は

出かけるときや 帰宅するときに

「歩道橋の階段で 滑らないように 気をつけてね」

のように 具体的な場所での 危険な行動について

ひとこと 声をかけるだけでも

安全を 意識しやすくなります



○ 「暗くなったら帰る」「遅くならないようにする」が 伝わらない

言葉を 文字通り 受け取る人や

抽象的な表現を 理解しづらい人の中には

「暗くなったら」や「遅くならないように」という表現では

伝わらないことが あります

「コンビニの前は 明るいから まだ大丈夫」

「夜 8時は 駅前に 大人の人が たくさんいるし

まだ遅くない」

と 独自の解釈をして 夜遅くまで 出歩くことがあります



季節によって 日が沈む時間は 変わるので

冬でも 夏と同じ感覚で 暗くなっているのに 出歩くことも あります

「6月から7月は 〇時まで 帰る」

「9月から11月は 〇時まで 帰る」

など 具体的な 時刻を 行った方が 伝わりやすくなります

交通安全の 参考情報

事故が増える時期

小学生では 入学後 しばらくしてからの 時期(5月6月)に
1年生の事故が 増える傾向にあります。

それまで 幼稚園バスでの 送迎や

保護者と 通園していた子が 一人で 通学するようになり

学校にも 慣れだして 油断してしまうことが 背景要因として 考えられます

中学生や 高校生でも 1年生の事故が多い傾向にあります

転校してきてしばらくたった時期にも注意が必要です

下校前の声かけで注意を喚起するようにしましょう

荒天時の交通安全

台風や 大雨など 荒天時は 激しい雨の音や 風の音で

普段よりも 音による情報が 得にくくなります

視覚障がいのある子は 普段より 事故にあう危険性が 高まります

降雪時は 点字ブロックなど 道路上の手がかりが 雪で 埋もれたり

歩道と車道の さかい目が わかりづらくなること で危険性が 高まります

荒天時には 声かけによって 注意を喚起するほか

危険性が 高い場合は 見守りの強化や 保護者・代理人への 引き渡しも 検討しましょう。

季節の変わり目で 日没の時間が早くなる 10月11月も 事故が増える傾向に あります。

統計※によると、小学生では下校中の事故が 60%

中学生では登校・下校で半々 高校では登校中が 60%となっており

通学方法別でみると 小学生は徒歩の事故が 98%

中学生では自転車事故が 63% 高校生は 自転車事故が 73%となっています。

(※平成 26 年 3 月独立行政法人日本スポーツ振興センター

通学中の事故の現状と事故防止の留意点 よりデータ引用)

自転車に 乗れるようになると

被害者だけではなく 加害者になる可能性も高まります

不注意や 多動の傾向のある子は 特に 注意が 必要となります

文献

本冊子を 作成する上で基になった 筆者の 研究 および 文献を 紹介します

(書籍)

- ・ 災害に負けない防災ハンドブック 2013年 エンタイトル出版/せせらぎ出版 堀清和著
- ・ 改訂版 現代ソーシャルワーク論—社会福祉の理論と実践をつなぐ 2020 年 晃洋書房
杉本敏夫監修、家高将明 堀清和編著
- ・ SDGs の推進・合理的配慮提供のための「やさしい日本語」
教育・福祉・就労の場で活用できる実践的コミュニケーション 2022 年 晃洋書房
堀清和 監著宮田美恵子 石野英司 宮崎充弘 編著”
- ・ 障がいのある子の安全教育と対策 防災・防犯・交通安全・事故予防 2022 年 晃洋書房
宮田美恵子 堀清和 監著 石野英司 宮崎充弘 編著
- ・ 加害者にさせないために 社会的孤立の予防と罪に問われた人の更生支援 2024 年 晃洋書房
石野英司 監著 堀清和 宮崎充弘 編著

(論文 研究ノート 雑誌記事等)

- ・ 危機管理マニュアルの分析に見る学校安全の取り組み。(2007) 安全教育学研究. Vol.7(1) 45-53. 堀清和、南哲
- ・ 中学校における登下校時の安全対策と行政の取り組み。(2007) 安全教育学研究.
Vol.7(1)55-62. 長谷川ちゆ子、堀清和、南哲
- ・ 学校管理下における障害事例の分析。(2008) 安全教育学研究. Vol.8 (1) 21-29.
長谷川ちゆ子、堀清和
- ・ 保育所・幼稚園管理下における死亡事例と保護者への支援。(2008) 日本看護福祉学会誌. Vol.14. (1) p.71-81.
長谷川ちゆ子、堀清和、杉本敏夫、南哲
- ・ 安全教育のための e-ラーニング教材開発に関する基礎研究。(2009) 安全教育学研究.Vol.9.49-56. 堀清和、木宮敬信、辰本頼弘、村上佳司、西牧真里、長谷川ちゆ子、中園伸二、阪田真己子、藤田大輔
- ・ 中途障害児童生徒の生活支援. 福祉文化研究. (2010) Vol.19.52-61. 長谷川ちゆ子、堀清和
- ・ 小学生を対象とした安全に関する調査の分析. (2010)安全教育学研究. Vol.10.47-55.
木宮敬信、堀清和、辰本頼弘、村上佳司、西牧真里、長谷川ちゆ子、中園伸二、阪田真己子、藤田大輔
- ・ 学校管理下の事故発生後における養護教諭の対応. (2011) 日本教育保健学会年報. Vol.18. 43-51.
長谷川ちゆ子、堀清和
- ・ 携帯電話および防犯ブザーの所持が児童の安全能力に与える影響. (2011) 学校危機とメンタルケア. Vol.3(1).44-55. 木宮敬信、阪田真己子、中園伸二、村上佳司、堀清和、長谷川ちゆ子
- ・ 中国における児童の安全に関する調査. (2011) 天理大学学報. Vol.228. 第 63 巻 1 号 95-106.
村上佳司、堀清和、木宮敬信、阪田真己子
- ・ 小学生の安全と防犯教育の関連. (2011) 日本教育保健学会年報.Vol.18. 15-32. 村上佳司、堀清和、木宮敬信、阪田真己子、長谷川ちゆ子、中園伸二.

- ・ Grade and sex differences in safety consciousness, knowledge and behavior in primary school students. (2011) 日本健康教育学会誌. Vol.19(4). 289 – 301. Hori, K., Kimiya, T., Sakata, M. Murakami, K., Hasegawa, C., Nakazono, S.
- ・ 障害を持つ子のための防災. (2013) 安全教育学研究. Vol.12(2). 27-36. 堀清和
- ・ 潜在危険論に基づく学校での防災. (2013) 日本教育保健学会年報. Vol.20.77-87. 堀清和
- ・ 発達障害を持つ子への防災に関する教員の意識. (2013) 日本教育保健学会年報. Vol.21. 29-38. 村上佳司、堀清和、阪田真巳子
- ・ 子どもが安全に暮らすために. (2014.5 – 2015.4)(依頼原稿)少年写真新聞社.「子ども防犯ニュース」12 回連載. 堀清和
- ・ 家庭における障害を持つ子の防災教育の実態と教育の手法.(共著 筆頭論文) 安全教育学研究. Vol.14(1). 13-25 2014 堀清和、村上佳司、佐藤健
- ・ 発達障害の児童生徒に対する事故予防の実態. (2015)日本教育保健学会年報 22 号 pp.3-10 堀清和 村上佳司 宮田美恵子
- ・ 小中学生の保護者の防災意識と要望. (2016)学校とメンタルケア第 8 巻 pp.1-11 村上佳司 堀清和 宮田美恵子 川田祐樹
- ・ 施設における発達障害児への防災教育～自助能力の向上を目指して～(2016)福祉文化研究 vol.25 pp.151-160 堀清和
- ・ 小・中学校の教員における防災教育の意識-発達障害のある児童・生徒への指導上の課題と合理的配慮-, (2017) 國學院大學 人間開発学研究第 8 号, pp105-116 村上佳司 堀清和 川田祐樹 宮田美恵子
- ・ 発達障害のある児童への防災教育プログラム ―合理的配慮を伴う実践―. (2017)学校とメンタルケア第 9 巻 pp.1-11 村上佳司 堀清和 宮田美恵子 川田祐樹
- ・ 施設における障害者の防災教育 ―実施に関する課題について(2017)福祉文化研究 vol.26 pp.49-62 堀清和 村上佳司
- ・ 障害者の犯罪被害の実態.(2018)学校とメンタルケア第 10 巻 pp.1-10 村上佳司 堀清和 宮田美恵子 鈴木彬文
- ・ 障害児者の交通被害の実態と課題～生きる力を育む障害児者の交通安全～.(2018)福祉文化研究 vol.27 pp.101-112 堀清和 村上佳司
- ・ 高齢者・障害者の災害対応課題と対策～益城町仮設住宅での被災者体験から～.(2018)建設工学研究所論文報告集 (60) 化研究 vol.27 pp.101-112 堀清和 村上佳司 115-122 堀清和 高田至郎 大塚廣子 辻井 喜代子
- ・ 意思疎通が困難な障害児者の交通安全―その課題とアセスメントの手法―.(2020)福祉文化研究 vol.29pp.39-51 堀清和 宮田美恵子
- ・ 「やさしい日本語」の障害者福祉分野での活用～意思決定支援と合理的配慮の提供～.(2023)福祉文化研究 Vol.32 pp.93-104 堀清和
- ・ 特集 子どもたちへの合理的配慮を伴う交通安全教育の推進：発達障害のある子ども視野に入れた交通安全教育 (2019)交通安全教育 54(4), pp.6-14,
- ・ 子どもたちの安全を考える36回連載・(2021 年 6 月から 2024 年 5 月) 交通安全教育 56 (6)から 59 (5)まで月一回 36 回連載

(学会発表)

- ・ 危機管理マニュアルの分析に見る学校安全の取り組み. (2006) 第 7 回日本安全教育学会. (福岡)
堀清和、長谷川ちゆ子、西牧真理、吉本文夫、南哲、中園伸二、藤田大輔
- ・ 登下校時の安全確保に向けた取り組みの実態. (2006) 第 7 回日本安全教育学会. (福岡)
堀清和、南哲、長谷川ちゆ子、中園伸二、木宮敬信
- ・ 学校安全とその取り組みの課題. (2007) 第 8 回日本安全教育学会. (大阪)堀清和、南哲、長谷川ちゆ子、中園伸二、
木宮敬信
- ・ 学校管理下における障害事例. (2007) 第 8 回日本安全教育学会. (大阪)
長谷川ちゆ子、堀清和、南哲、中園伸二、木宮敬信
- ・ 児童生徒の障害事例と生活支援. (2008) 第 9 回日本安全教育学会. (東京:玉川大学)
長谷川ちゆ子、堀清和、南哲、中園伸二、木宮敬信
- ・ 小学生の安全意識に関する実態調査. 第 9 回日本安全教育学会. (2008) (東京:玉川大学)木宮敬信、村上佳司、辰本
頼弘、西牧真里、堀清和、長谷川ちゆ子、中園伸二、藤田大輔
- ・ 小学生を対象とした安全意識の分析. (2008) 第 9 回日本安全教育学会. (東京:玉川大学)辰本頼弘、西牧真里、
堀清和、長谷川ちゆ子、中園伸二、木宮敬信、村上佳司、藤田大輔
- ・ 教材開発に向けた安全意識の研究. (2008) 第 9 回日本安全教育学会. (東京:玉川大学)堀清和、辰本頼弘、西牧真
里、長谷川ちゆ子、中園伸二、木宮敬信、村上佳司、藤田大輔
- ・ 犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システム. (2009) 第 2 回犯罪からの子どもの安全シンポジウム.
(東京:東京大学生産技術研究所) 木宮敬信、村上佳司、辰本頼弘、西牧真里、堀清和、長谷川ちゆ子、中園伸二、藤田大輔
- ・ 児童の安全意識と行動に影響を及ぼす要因とは. (2009) 第 18 回日本健康教育学会ラウンドテーブル. (東京:東京大
学) 木宮敬信、中園伸二、長谷川ちゆ子、村上佳司、堀清和、阪田真己子
- ・ Safe behavior awareness survey for primary school children. (2009) The first Asia- Pacific
conference on health promotion and education. Makuhari Messe. (千葉)Kimiya, T. Sakata, M.,
Tatumoto, Y., Murakami, K., Nakazono, S., Hasegawa, C., Hori, K
- ・ 児童の安全に対する「気づき」について. (2009) 第 10 回日本安全教育学会. (東京:東京学芸大学)
堀清和、長谷川ちゆ子、中園伸二、村上佳司、木宮敬信、阪田真己子
- ・ 児童の安全意識・行動と学校特性との関連について. (2009) 第 10 回日本安全教育学会. (東京:東京学芸大学)木宮
敬信、村上佳司、中園伸二、長谷川ちゆ子、堀清和、阪田真己子、辰本頼弘、西牧真里
- ・ 通学路踏査による児童の安全行動の定量化. (2009) 第 10 回日本安全教育学会. (東京:東京学芸大学)阪田真己子、
中園伸二、村上佳司、長谷川ちゆ子、木宮敬信、堀清和
- ・ 小学生の安全意識に関する調査研究. (2010) 第 7 回日本教育保健学会. (滋賀:びわこ成蹊スポーツ大学)長谷川ちゆ
子、堀清和、木宮敬信、村上佳司、阪田真己子、中園伸二
- ・ 犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システム. (2010) 第 3 回犯罪からの子どもの安全シンポジウム.
(東京:時事通信ホール)木宮敬信、阪田真己子、中園伸二、村上佳司、長谷川ちゆ子、堀清和、藤田大輔
- ・ 児童の安全に関する国際比較(第1報)ー日本・中国・台湾の児童を対象とした調査結果からー. (2011) 第 20 回日本
健康教育学会. (福岡)村上佳司、木宮 敬信、阪田真己子、堀清和、姜逸群、黄雅文

- ・発達障がいを持つ子への防災教育(1)－調査結果から－.(2013)第14回日本安全教育学会.(浦安:明海大学)村上佳司 堀清和 佐藤健
- ・発達障がいを持つ子への防災教育(2)－教育の課題と方法－.(2013)第14回日本安全教育学会.(浦安:明海大学)堀清和、村上佳司、佐藤健.
- ・障害を持つ子への防災教育－自助能力向上の観点から－.(2014)第11回日本教育保健学会.(山口:山口大学)村上佳司、堀清和.
- ・障害を持つ子への防災教育－自助能力向上の観点から.(共同発表)
第11回日本教育保健学会.(山口:山口大学)(2014) 村上佳司、堀清和
- ・発達障害・自閉症の子どもの事故予防-実態と対策.(共同発表 筆頭演者)
第15回日本安全教育学会.(仙台:東北工業大学)(2014) 堀清和、村上佳司、宮田美恵子
- ・発達障害・自閉症の子どもへの防災教育に関する研究.(共同発表)
第15回日本安全教育学会.(仙台:東北工業大学)(2014) 村上佳司、堀清和、宮田美恵子
- ・特別支援児童・生徒の犯罪からの安全教育に関する研究.(共同発表)
第15回日本安全教育学会.(仙台:東北工業大学)(2014) 宮田美恵子、堀清和、村上佳司
- ・小学校における障がい児への防災教育～自助能力向上の観点から.(2015)第24回日本健康教育学会(前橋:群馬大学-前橋中央公民館) 村上佳司、堀清和、宮田美恵子
- ・発達障がいの子の事故予防における課題と対策.(2015)第12回日本教育保健学会
(愛知:日本福祉大学半田キャンパス) 3.21-22.講演集 80-81 頁村上佳司、堀清和、宮田美恵子
- ・発達障がいの子への防災教育～実践事例から～.(2015)第12回日本教育保健学会
(愛知:日本福祉大学半田キャンパス) 3.21-22.講演集 80-81 頁 堀清和、村上佳司、宮田美恵子
- ・発達障がい児への防災教育・対策の取り組み.(2015)第26回日本福祉文化学会全国大会.(神戸) 堀清和
- ・障がい者支援施設における防災の実態と課題.(2016)第25回日本健康教育学会(沖縄:沖縄科学技術大学院大学) 堀清和、村上佳司、河田裕樹、宮田美恵子
- ・発達障がい児・自閉症児の防災教育における課題.(2016)第25回日本健康教育学会(沖縄:沖縄科学技術大学院大学) 村上佳司、堀清和、河田裕樹、宮田美恵子
- ・発達障がいがある子への合理的配慮を伴った防災教育実践.(2016)第27回日本福祉文化学会全国大会.(東京:東京立正短期大学) 村上佳司、堀清和
- ・障害のある子への交通安全教育の実践と課題.(2018)第19回日本安全教育学会(横浜:國學院大学)9.8-8 堀清和 村上佳司 小川和久 宮田美恵子
- ・市民防災学習における「ナラティブ手法」の活用.(2018)第37回日本自然災害学会(仙台市中小企業活性化センター)

プロジェクト研究

1. 独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター・研究開発領域「犯罪からの子供の安全」犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システムの開発プロジェクト実施者.(2007.9-2012.3) 研究代表者:前大阪教育大学付属池田小学校校長、藤田大輔
2. 子どもの防犯のための e-learning 教材.(2009) 研究代表者:前大阪教育大学付属池田小学校校長、藤田大輔

3. 「犯罪からの子供の安全」犯罪からの子どもの安全を目指した e-learning システムの開発プロジェクト・全国小学校における小学生の安全意識調査報告書作成、子どもの安全意識の構造解析グループ、子どもの防御反応の行動解析グループ。(2010.3) 研究代表者: 前大阪教育大学付属池田小学校校長、藤田大輔
4. 東北大学災害科学国際研究所プロジェクト助成研究: 発達障害を持つ子どものための防災。(2012.10~2014.3)
研究代表者: 堀清和
5. 障がいを持つ子のための楽しく学ぶ防災教育。(平成 25 年 12 月~) 研究代表者: 堀清和
6. 発達障害を持つ子のための防災教材の開発と指導方法の研究。(平成 26 年 2 月~)
研究代表者: 堀清和
7. 発達障害・自閉症の子どもへの事故予防教育に関する研究。(平成 26 年 3 月~) 研究代表者: 村上佳司